

平成20年度第3回安全・安心・生きがい部会

□開催日時 平成20年10月27日(月) 午後6時～

□会場 区役所旧建築課スペース

□参加委員

専門部会A委員：松世三重子部会長、三浦敏博副部会長、荒井康男、猪股清二、
高瀬芳江、加藤康夫、菅野具江、網川幸子

事務局(企画課)：渡邊、小池、北村、小出、齊藤、吉田

□議題

1. 「地域防犯活動の推進」について

(1) 前回(第2回)専門部会で発言のあった課題の確認について

(2) 各町会単位のパトロールの活動内容について

(3) 解決に向けた取組の検討について

2. その他

1. 「地域防犯活動の推進」について

(松世部会長)

前回までに把握、検討した現状、課題、検討の方向性等をまとめてありますので、三浦副部会長から内容確認をお願いします。

(三浦副会長)

幸警察署から説明を受け、皆さんで話し合った結果です。課題に関する区内の現状は、犯罪件数が増えているということ。特に振り込め詐欺が多いということでした。また、地域や行政の主な取組については、一番多いのは市民と警察との意識にギャップがあるということでした。警察からは、防犯パトロール活動が見えていないという指摘がありました。そして、幸区の特徴ですが、年間の自転車盗難が多いことと、高齢者の被害が増えているということがありました。そこで見えてきた課題として、親や周囲の大人が子どもに対して無関心になっているので、それに対し、大人が子どもに声をかけて注意したり、子どもの相談相手がないので何とかしようということがありました。また、万引きが犯罪であるという意識が希薄であるとの指摘もありました。もう1件、子どもに対する性犯罪やいたずらの犯罪も課題としてという意見もるので付け加えてほしい。部会でまとめた意見としては、全部のことに共通して言えるのですが、声かけをしよう。防犯パトロールを見えるものにしよう。どういうときに防犯パトロールをやっているかという資料を集めようという意見もありました。その他に、相談の窓口がないので必要ではないかということで意見を集約しました。

(松世部会長)

前回の部会で、各町内会・自治会が実施している防犯パトロールの活動内容を知りたいという御意見があったので、その件につきまして事務局から説明をお願いします。

(事務局)

資料2について、実際にどういう目的で実施しているのかを知りたいということがありました。各町内会・自治会の名前、実施頻度、おもな時間帯、主な活動地域、パトロールの人員の

規模、実施の頻度について、記載がされています。

今回の一番のポイントが一番右側になりますが、どういう目的でこれらの活動が行われているのかということです。主なものは犯罪の防止ということで、一般的な犯罪防止という観点から行われているようです。そして、児童の見守りも併せて行っています。主な時間帯は夕方から夜間にかけて、それぞれの町内会の中をパトロールしているのが主な活動です。

次に、資料3の防犯ボランティア一覧を御覧ください。前回、町内会・自治会のパトロール活動が見えていないという指摘があったので、町内会・自治会のパトロール活動をまとめました。一例として、日吉地区の活動ですが、日吉地区では自転車利用者が非常に多く、自転車に關係する犯罪や交通事故が非常に多いことから、防犯交通関係者の協力で日吉地区パトロール隊が結成されました。協力団体では交通指導員、町内会交通員、防犯関係では地域防犯連絡所、防犯推進委員、町内会防犯部長、防犯指導員があり、以上の6団体の協力を得て、町内会会長の呼びかけで結成されることになりました。パトロールの内容は地区内に4つの交番があるので、4つの交番単位に分けてパトロール活動を行って、それぞれの人数が25~30名です。当日の参加人数によってグループ分けをし、月2回のパトロールするという事です。夜間パトロールでは、主に自転車の無灯火や二人乗りに声をかけ、注意を促しています。また、幸警察署の要請により、空き巣、侵入盗、ピッキングなどの防犯チラシを玄関ポストへ投函することも行っています。パトロール中に気づいたことは交番担当責任者に報告し、各町内会に対応できることについては交通部長、広報部長が対応し、対応できないことについては警察や区役所に報告し、改善を要求しているということでした。

(松世部会長)

他にもやっているところがありますか。

(猪俣委員)

私のところは、この資料2の8番目の中幸町中央町内会です。月3回、夜21時から22時の間にやっています。それとは別に下校時にもやっています。下校時は、子ども会の役員さんが中心になってやっています。内容は今の説明と同じようなことで、このため、前回の生活安全課長がおっしゃっていたのは多少不満があります。毎日やればなおいいのですが、現実問題、私の町内会は世帯集が260世帯あり、高齢化が進み、若い人は勤めがあるので役員を引き受けてくれません。パトロールは町会の役員が中心ですから、月3回が限度です。各地区では、安全・安心まちづくり推進委員会があるので、そこでやっています。これとは別に6月末に10日間、今から10年以上前からやっている。

(三浦副部会長)

日吉地区のパトロールでは、交番が活動拠点となっていますが、交番担当責任者は警察の方ですか。

(加藤委員)

ほとんど交番の巡査がやっている地区もあります。全部ではないですが、自分たちも警邏しているようです。

(三浦副部会長)

パトロールで問題を報告するという事ですが、パトロールした問題点が迅速に解決したという事例はありますか。

(加藤委員)

事件はほとんどないですが、夏は花火をしていることが多く、「火を気をつけて」とか「気をつけて帰るなよ」と注意すると「分かりました」となって、大きな事件があるというわけではないです。

(三浦副部長)

空き巣や侵入盗のチラシを配るのはよい試みだと思いますが、パトロールのときにドアが開いていて、明らかにおかしい場合、声かけをするようなことはありますか。

(加藤委員)

そういうことはありませんが、新聞勧誘員とおばあさんのやり取りで、物を受け取ってしまい、トラブルになっていたときに、間に入ったということはありません。

(猪俣委員)

南河原地区では警察から一緒に回りましょうという話は一度もないです。ただ、消防の方と一緒に回ることがあります。

(三浦副部長)

そういうときに、消防署から「放火されやすい場所だから注意してください」ということはないですか。

(猪股委員)

事前に私のところに来られて、一人暮らしの方の家で何年か前に入院して空き家になっていた場所がありました。門が開いていたということがあったので火災等に注意してほしいということがありました。実際には針金で門を開かないようにしました。

(松世部長)

盛んにパトロールをしている町会もあり、月に1回というところもありますね。

(猪股委員)

安全・安心まちづくり委員会に町会長に話をし、最低月3回くらいやってほしいと要望し、皆さんが協力してくれたので、17年から実施しています。

(三浦副部長)

参加される方の年齢層は高くなっていると思いますが、それに対する取組はどうしていますか。

(加藤委員)

防犯パトロールということですが、年末年始のパトロールはわりと若い人がいます。役員は奥さんが多いです。

(三浦副部長)

その取組はどういう役員でされていますか。

(加藤委員)

何班から何班までというように、役員全員が回るように組み立てます。10~20人で集まり、警邏が終わった後に若干の懇親会を開催しています。もうひとつ、警邏をすることで、地域を知ることができます。みんな結構知らない。地域のことを知ることができるので、来る人がいます。

(猪股委員)

女性は婦人部と子ども会が中心となって警邏しています。それ以外に、役員以外の方で役員のご主人が出てきてくれるという話はうらやましいです。

(松世部会長)

菅野委員の町内会はどうですか。

(菅野委員)

私は日吉地区で、暮れと7月に町内を回るときには主人がやってくれています。同じように参加させてもらっています。私たち小学生、中学生の子どもがいる世代ですが、申し訳ないと思いつながら聞いていました。実際には大事なものは分かっていますが、パトロールに出るときに自分の子どもを家において出るという不安があります。

(松世部会長)

子どもさんもそのようにして参加することは、おとながどういうことをやっているのかという見本にもなりますし、非常にいいと思います。綱川委員のところはどうですか。

(綱川委員)

塚越1丁目町内会ですが、交通安全週間や暮れには重点的にやっています。月1回、巡回していますが、今は町内会に入らないという家庭があるので、町内会長も苦労しているようです。私たちは月2回、定期的に集まりがあるので、そういうときに情報交換をしますが、1丁目の御岳神社で小学校低学年の子が芋を焼いていた時期があって、そういうことは普段も情報交換しながら、危険ということで、すぐに町内会長に報告し、学校の先生から注意していただくようにしたという事例がありました。

(松世部会長)

いろいろな町内会での防犯活動等、皆さんのお話から実態が見えてきたと思います。それでは次第(3)の解決に向けた取組の検討に移っていきたいと思います。審議テーマ「地域防犯活動の推進」の取組の方向性ですが、それに沿って具体的にどのように取り組んでいくかについて、第2回区民会議に向けた具体的なまとめを行えるように話し合っていきたいと思います。

前回、青少年の犯罪防止という方向性でいってみようということで、ひとつが防犯パトロールではないかと思いますが、その他にどのように取り組んでいったらよいかということ審議したいと思います。まずは、関心を持ってもらわなければならないと思います。結局、どこの家庭も自分のところが精一杯で、そこまで手が回らないところはあると思います。猪俣委員のところや日吉地区の方々は積極的に防犯活動を行っていて、警察に頼らずに自分たちで守ろうという姿勢が非常によく分かりましたが、やはり高齢化が進んでおり、町会での役割が非常に重くなっているのではないかと思います。地域の方が関心を持つ方向、皆が防犯活動に

携わっていかうという取組について関心を示すような方向で、どうしたら関心を持ってもらえるのでしょうか。

(三浦副部長)

活動をアピールすることだと思います。

(加藤委員)

なかなか人を確保することが大変なのが現状です。また、中学生に対してはダメだと思います。学校外で悪いことをすると警察に通報されてしまう。悪い子たちが大勢でたむろしていると地域から嫌がられます。中学生の問題はなかなか難しいです。地域で何とかすればといっても難しいので、どうするのかという解決の取組ができない状況です。あと、自転車のマナーが非常に悪いといわれます。警察も知っていますが、力を入れても直らないです。一方通行の取締りをやってよとそういう言い方をします。そこから直さなければだめだと思います。それが当たり前だと、大人も子どもも思っているのに、行政からなんとかやってくださいというのは難しいのでは。

(松世部長)

何かいい事例があればいいのですが。綱川委員、どうでしょうか。

(綱川委員)

全体が社会常識から外れていることが結構多いです。いろいろな方法で少しずつやっていくしかないのでは。

(加藤委員)

防犯活動の意義と必要性をアピールしていくことが大事ということですね。なるべく多くの方に参加してもらえれば、その方も当事者になるのでいいと思います。

(松世部長)

犯罪も増えているので、そういうことも知らないと分からないですね。一般の人たちは自分の家のことしか分からないだろうし、町内会の人たちが治安を守ってくれているから安心しきっていると思いますが、今は青少年の犯罪や万引きも増えてきているので、そういうことが多いということを知ってもらわないとだめだと思います。各家庭に自覚を持ってもらい、いろいろな活動に参加できるような仕組みを作っていかなければならないと思います。日吉地区で中学生の問題が難しいとおっしゃっていたが、そういう問題を学校とかに連絡していますか。

(加藤委員)

学校とはやりとりしていません。

(猪股委員)

南河原中学の生徒が来て、中学の人と話をして解決したという話は聞いていませんが、そういう話は聞きました。私は中学校へ行く機会が多いですが、生徒は本当に態度がいい。今の話のように、学校ではいい子だが、外で問題が起きているということがあります。南河原中に行くくと顔を知らなくても向こうから挨拶してくれます。しかし、そのあと校長先生から一部手に

負えない子もいるという話を聞きました。

(松世部会長)

どの学校にもそういう生徒はいると思います。学区外に出ると学校も手に負えないと言っていました。特に、ラゾーナに行くと、いろいろな学校の生徒がいて、そこでけんかになったり、犯罪行為が起きると悩んでいました。

(猪股委員)

まじめな学生は先生や家族が相談しますが、そうでない子は先生にも誰にも相談しません。普通の生徒が悪いグループに入ってしまうと悩むのではないのでしょうか。誰かに相談したいが、相談相手がいないということをよく耳にします。そのような窓口を作っておかないといけないと思います。

(松世部会長)

この相談は生徒自身が相談するということですか。

(猪股委員)

生徒は勉強のことを先生に聞きますが、それ以外はあまり相談しないと思います。そうすると、親にも言えないが、誰かには相談したいということになります。そのうち、どんどん深みにはまってしまうケースが多いのではないかと考えています。

(松世部会長)

そういう相談は民生委員（児童委員）の方がやっていますが、あまり利用されていません。

(猪股委員)

何十年か前には、教育委員会で校長経験者は退職してから1～2年間くらい、そういう教育機関の相談窓口において、子どもから大人までの相談を受けるということをやっていたことがあります。その当時でも、親からの相談はあっても、子どもからの相談はなかったのではないかと思います。元先生なので、やはり嫌なのかもしれません。

(コンサルタント)

情報提供として、子どもの遊び場のプレーパークというものがありますが、プレーパークには毎日やっているものと月に数回やっているところがあって、その大きな違いは毎日やっている子どもの変化が分かるということです。その中で、プレーリーダーが話しかけていると「実は…」といって相談してくるようになります。自分からはなかなか相談してくれないですが、毎日の変化をみてくれるお兄さんやお姉さんがいて、「最近どうなの…」ということで話しかけると相談してくるので、常設のプレーパークがいいのではないかと話を聞いたことがあります。そういう意味で、こども文化センターも役割があるのではないのでしょうか。

(松世部会長)

今資料を配っていただきましたが、さまざまな窓口がありますね。

(事務局)

子どもの権利条例を作った部署がやっているのですが、そこで電話を開設して、何でもいい

から電話をくださいという形です。学校でもカードを配っているところもありますが、なかなか知られていないところがあるようです。

(猪股委員)

お母さん方からの相談がありますが、それはどちらかというと進学についての相談になりません。

(松世部会長)

それは学校に任せるしかないですが、こういった相談窓口があることは今初めて知ったので、知らない方が多いかもしれません。

(三浦副部会長)

時間帯も問題ですね。これだと授業の時間なので。

(松世部会長)

こういうところがあるということは、学校から知らせてもらうしかないですね。

少しパトロールの話に戻りますが、日吉地区や南河原地区での取組事例から、一生懸命防犯パトロールをやっているという取組が非常に重要だということは分かりますが、パトロール活動を見えるようにしていくために、皆がパトロールをしていることがわかるような方策はないのでしょうか。

(猪股委員)

南河原では、必ずとは言わないですが、なるべく拍子木を打って歩くようにしています。これは防犯のアピールになると思います。かなりの範囲まで聞こえますので、気づいて窓を開けて「御苦労さま」と声をかけてくれる人もいます。

(松世部会長)

どのような掛け声をかけているのか。

(猪股委員)

拍子木を打つだけです。南河原の場合は月3回、中には月1回というところもありますが、南河原は日吉や御幸地区と違って狭いので、どこかの町会がやって拍子木をたたくと、どこかでパトロールをやっていることが分かります。

(松世部会長)

日にちを別にしているのですか。

(猪股委員)

特に調整はしていませんが、大体はばらついています。

(松世部会長)

私たちがやれることといえば、防犯パトロールが一番有意義なのではないでしょうか。町内会でも高齢化が進んでいて、月3回のパトロールが限界だということで、それ以上になると厳しいという話がありました。どうしたら地域の皆さんに防犯パトロールを知ってもらって参加してもら

うことができるのかが一つの課題です。それをどのように取り組んでいけばよいのでしょうか。

(加藤委員)

良い解決方法があるとするならば、区民会議では区役所に提言することになるので、この内容を区長に要請し、区は各町内に行き、区民会議からの提言ということでお願いして、町内会長の話を聞くことです。

この区民会議は何をするところなのか。ふれあい出張講座の件では、区が各町内会を回ると言っていれば問題がなかったのに、全部の町内会のどこかでやってほしいと言ったから、どこか1箇所であればよいという話になりました。だから、今これをやっても、提言が行っても納得するものがないと何のために区民会議をやっているのかということになってしまいます。すべて建前で論議しているような気がします。町内で話をしましたが、結果的には、皆無関心でした。

(松世部会長)

結局、一番町会にしわ寄せがいくと思います。それでは、納得できるような解決策をこれから追及していかなければなりません。

(猪股委員)

防犯について、南河原地区、日吉地区、御幸地区の各地区で安全・安心まちづくり委員会があり、その上に区の安全・安心まちづくり委員会があります。委員長が全町連会長で、各地区の責任者が出て、そこでいろいろと話をしています。来年度はもういいという方も少しいます。すると区の方の安全・安心まちづくり委員会からもう1年継続しようというって賛成してもらっています。ということで、毎年そういう形になっています。

(事務局)

幸区安全・安心まちづくり推進協議会というのは、地域振興課が事務局を担っています。これができたのは昨年で、各区にあります。今年、神奈川県安全・安心まちづくり推進協議会に加盟しました。任意団体です。安全・安心は住民の皆さんが非常に興味のあるところですが、中身の話になると、事務局長として感じることは、非常に形式的で、県や市、警察で作ったものを配ることになりますが、アピールやお知らせをするだけの行為となっています。それが、現実問題として地域の方たちのところでどうしていくかということになると、難しいところです。

(猪股委員)

各地区に対して、もう少しパトロールを増やしてほしいという要請はあります。鹿島田駅前で行っているのは区の安全・安心まちづくり推進協議会が主催です。

(松世部会長)

この安全・安心まちづくり推進協議会は幸区が今トップでやっていて、それが町会に流れているのですか。

(事務局)

全町会に流れています。

(松世部会長)

そうすると、町内会の役員の方が推薦されてそこに参加する言う形になっているのですね。幸区独自の安全・安心まちづくりとして、何かキャンペーンのようなものをやろうということはないですか。

(事務局)

キャンペーン等は区で主催するものです。

(松世部会長)

母体となるところがもう少ししっかりしてくれると良いと思います。幸区の犯罪をゼロにしよう(なくそう)というキャンペーンのようなものを、目標を持ってやったらどうかと思います。

(加藤委員)

例えば、月1回でも警察官と一緒に各町内を回るようにすれば、効果があってよいと思います。町会だけで何かやってほしいといっても、なかなかやらないと思います。警察官がいるということ効果が違ってきます。

(三浦副部会長)

その活動を住民にアピールしていかなければならないと思います。何か問題があったら町内会に相談してくださいとしておくとか。

(綱川委員)

一人暮らしの高齢者が多いですが、情報交換する集まりの中で一人暮らしの方が、警察官が巡回して、心配な様子はないというメモを置いていってくれて、それを見るところうれしいという話が出たことがあります。警察の方も忙しいと思うが、そういうことをしてほしいです。

(松世部会長)

PRの方法はありますか。

(加藤委員)

拍子木をたたいたり、声をかけたりしながら、パトロールすることが、一番のPRになると思います。

(三浦副部会長)

PRは、各町内会に持ち帰っていただき、こういう話が出たということを話していただきたいです。広報でパトロールをして防犯に対する意識を高めようということをPRするしかありません。

(菅野委員)

幸区PTA協議会は19校の団体ですが、月1回運営委員会をやっているのので、その場でPTA協議会の会長さんにアピールすることはできると思います。

(松世部会長)

その他に何かありますか。

(三浦副部会長)

提案という形で皆さんに意見を伺いたいのですが、防犯でも防災でも通報が非常に大事な要件になると思います。信号の下に場所が明記されているところはよいですが、まったくわからない場所の場合、現場がどこかと通報できない場合があると思います。一番よいのは各場所に住所表記することですが、予算的な関係から無理だと思います。自動販売機等に住所を明記するとか、最悪の場合には道路に表記する等の措置は難しいのですか。交差点のところに番号をつけたりすることができるかというと思う。それがわかるようにしてほしいです。町中の住居表示がもっとわかりやすくなればよいと思います。

(事務局)

電信柱についていたり、住居表示については住居表示板や各家に札が配られたりしています。個人の自宅につけてもらうようになりますが、自動販売機に表示ができるのかは分かりません。

(荒井委員)

ごみの分別のことはよく分かりませんが、町会にどういう形で言ったからおかしなことになったのでしょうか。区民会議は区民に提案する機関ですが、提案したものを実行する場合、区民会議でこういうことをやろうと言われたからやってくださいというのではなく、一度行政で検討してやろうということになったときに初めて実行されますが、実行されるときにはどうなっているのでしょうか。今回の件も、この部会で区民会議で提案し、幸区でやりましょうといったときに実行されるわけですが、警察と一緒にやることで、パトロールで形骸化したものにも効果があるのではないのでしょうか。警察を入れればもっと実のあるものになるということで提案していきたいです。

(事務局)

協働推進事業では、地域団体が活動されることに対してお金が出される事業もありますが、補助金として団体の事業を補助をするということもあります。行政がやっていくことか、地域の方が活動としてやるか、民間業者がやっていくかという実施の主体があります。ごみの提言の場合は、地域で状況が違うので、それを知ってもらう取組を進めていこうというものでした。実施団体はいくつかにか声をかけていかなければなりません、それぞれの地区の町連があり、広げていくためにモデル的に各町連の中で一カ所くらいに手を挙げてもらえるところはありませんかということをお願いしました。そこで全町内会にやるようにした方がよいのではないかということはありませんが、全部といってもすでにやっているところもあり、そこにもう一度やってくださいというもおかしいので、やっていないところに手を挙げていただければとお願いしたものです。そこは協働推進事業で実施するものではないので予算立てはしていません。行政が講座を開くということであれば参加してくださいという言い方がありますが、生活環境事業所でやっている講座ですので、そこに参加を促す方法でした。

(荒井委員)

パトロールを強化するにしても、警察に入ってもらうにしても、パトロールをやるのにいろいろ準備するものが必要であると思います。ある程度、費用のかかるものも出てくるでしょう。例えば、先ほどの表示を増やすこと等はお金のかかることなので、防犯の基盤として地番表示

などをやるのであれば費用面など、どういう形で持っていけるのでしょうか。非常に空しい会議になってしまう可能性があると思うので伺ってみました。

(松世部会長)

いろいろな御意見を出していただき、ありがとうございました。少しまとめてください。

(コンサルタント)

今日の意見を整理すると、2つの柱が出たと思います。

ひとつは、犯罪を未然に防止する意識と関心を持ってもらうことが大事だということが根底にあって、関心を持ってもらう方法は、まずは知ってもらうためにPR活動をしなければならないという意見。

もうひとつは、警察と一緒に回りたいという意見があって、警察の人が回ると安心だという意見がありました。警察と回るともっとアピールできるのではないかという意見もあり、これを基本に考えていこうということだと思います。

どのようにアピールするかということですが、視覚、音（拍子木等）でアピールしていこうという意見や、他に区民会議関係の広報誌等も利用できるのではないかと、各町内会に持ち帰り、アピールの方法を考えてもらうとかの意見もありました。

ただ、子どもの問題ではそのような取組は難しいという意見がありました。その中のひとつとして、子どもが相談する人や場がないという意見がありましたが、実際には窓口があり、あっても知られていないということでした。窓口の時間帯、運用の問題として、子どもたちが使えるような運用が必要という意見がありました。今ある組織で、安全・安心まちづくり推進協議会の強化や、大人も子どもも社会常識から外れているところがあるという懸念もありました。

(松世部会長)

皆さんの意見をまとめていただきました。

第2回区民会議での報告者を決めていきたいと思います。第2回区民会議では、現在までの検討内容について説明し、多くの意見をもらうために検討報告の内容を整理します。第2回区民会議での意見交換とともに、再度部会での検討を行い、部会検討が熟したところで第3回区民会議全体会で検討し、まとめていきたいと思います。

1番目が部会検討での経過、2番目が幸区における犯罪の概要、3番目は具体的な検討内容、取組みの方向性、具体的な取組み事項の構成でまとめて、報告していきたいと思います。幸区における犯罪の概要は幸警察署から説明のあった具体的な内容をグラフなどを使いながら分かりやすく説明していきたいと思います。具体的な検討内容は今日のまとめを報告します。以上の骨子でよければ報告者を決めていきたいと思います。

1の部会検討での経過は正副委員長のどちらかということでもよろしいでしょうか。2の幸区における犯罪の概要は荒井委員または綱川委員にお願いします。3の具体的な検討内容は正副委員長とします。

(事務局)

今日のまとめ内容をもとに、発表者の委員に集まっていたいただき、内容を確認していただきたい。その内容を他の部会委員にも御確認いただいた上で、今回の中間報告と考えています。

(松世部会長)

部会報告のまとめは本日の意見をもとに事務局と報告者で整理するということになります。

整理した内容は事務局から郵送し、皆さんに確認していただくことになります。問題なければ報告するという形になります。

2. その他

(松世部会長)

次回の部会の日程は、できれば夜やっていただけたるとありがたいです。次回の予定は、改めて調整をお願いします。本日はたくさんの御意見ありがとうございました。